令和7年度「専修学校の国際化推進事業」

留学生が「学び・住み・就職して良し」の熊本県版・国際化推進事業

事業全体成果報告書

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、≪一般社団法人熊本県専修学校各種学校連合会≫が実施した令和７年度「専修学校の国際化推進事業」の成果をとりまとめたものです。

一般社団法人熊本県専修学校各種学校連合会

＜ 目 次 ＞

（1） 事業の趣旨・目的等について …… 2

（2） 当該地域において取組を進める意義 …… 2

（3） 実施する取組の具体的内容 …… 3

（4） 取組に付随して実施した取組 …… 6

（5） 今年度に取組んだ具体的な内容について …… 7
〇事業を実施する上で設置する会議 …… 13

（6） 事業実施に伴うアウトプット（成果物） …… 22
〇海外出張 …… 23
〇専修学校状況アンケート調査 …… 26
〇「外国人留学生に選ばれる熊本」プランの進捗確認と更新 …… 27
〇ターゲット国での熊本留学フェアの開催業務 …… 29
〇ターゲット国の日本語教育機関及び国内日本語学校との提携… 31
〇台湾人留学生向け短期滞在受け入れモニター実施業務 …… 32
〇教育指導サポート業務（多言語学習アプリ運用） …… 33
〇教職員向け「在留管理、就職支援セミナー …… 34
〇留学生用 web ページ、多言語パンフレット、動画制作…… 35

（1）事業の趣旨・目的等について

【当初】・熊本県の外国人留学生数は、2023 年で、1,112 人と全国のわずか 0.4%に満たない。留学生受入れ中の専門学校は 11 校(24%)、受入れ数は 438 人と少なく、しかも受け入れ国に偏りがある。一方で、今後留学生を受け入れたい、関心はあるが受入れがよくわからないが 11 校(24%)もあり、関心度の高さと受け入れの課題が分かっている。
・そこで、留学生が「学び・住み・就職して良し」の熊本を目指し、専修学校、企業・団体と熊本県、国際交流団体が一体となり、戦略的な留学生の受入れや国内定着を見据えた就職支援等を行っていく。
・具体的には、半導体産業にも関わる IT 分野、県内で人材不足が緊急の課題となっている宿泊分野、慢性的な人材不足の介護分野を外国人留学生の受入れの 3 分野とし、これから受入れを促進していきたい新規国として、モンゴルとミャンマーを設定し、さらに熊本県の喫緊の課題である台湾の 3 か国をターゲットとする。
・⑴入学前⇒⑵在学中〔教育指導〕⇒⑶在学中〔在籍管理、生活サポート〕⇒⑷就職・定着支援が一気通貫した事業を展開して、外国人留学生の戦略的受入れの促進と就職先企業との連携も踏まえた円滑な就職、その後の定着までを見据えた熊本版トータルパッケージモデルを構築する。

（2）当該地域において取組を進める意義

ⅰ）外国人留学生の受入れ等の推進に向けたターゲット国（地域）

ミャンマー	モンゴル	台湾

ⅱ）外国人留学生の受入れ等の推進に向けたターゲット分野

IT 分野	宿泊分野	介護分野

〇熊本県における外国人留学生の現状
・留学生を受け入れる専修学校の専門課程の学科が少ない（22 課程）こと、留学生を最初に受け入れる日本語科が圧倒的に少ない（7 学科）。
・受け入れ国が、ネパール、ベトナム（全体の 85%）と大変偏っている。
〇熊本県の TSMC 進出の影響と人材の課題・対応
・半導体企業では様々な職種の人材が必要で、その中で、IT 分野の人材育成・確保が挙げられている。
・TSMC 社員と共に来日してくる台湾人の家族の日本語教育問題が課題となっている。
〇熊本県の IT 分野、宿泊分野、介護分野の人材不足
・県内の正社員求人倍率（令和 6 年 4 月）では、「介護サービス職業」が 3.20（県平均 1.05）と圧倒的に高く、人材不足（求人数 3,231 人）である。特に、日本人の求職者数（1,011 人）が少ないので、外国人材の活用も積極的である。IT 分野、宿泊分野も同様に

求人ニーズは高く、人材不足である。

（3）実施する取組の具体的内容

① 入学前

❶-1. 専修学校向け「新規留学生・受入れ促進の懇談会」開催　R6～9 年度
・対象者：県内の留学生受入れを検討する専修学校の経営者・担当者
・回数：リアルとオンラインを併用して 2 回/年

❶-2. 専修学校状況アンケート調査　R6～9 年度
・専修学校の在留学生、卒業生の状況アンケート調査を、R5 年度、6 年度と同等に行い、受入れ実態を経年的に把握する。

❶-3.「外国人留学生に選ばれる熊本」プランの進捗確認と更新 R6～9 年度
・令和 6 年度に策定した、県内専修学校の留学生受入れ校、受入れ課程の拡大をおこなうことを目指した、【外国人留学生に選ばれる熊本】プランの進捗確認・更新を行った。

❶-4.　「企業ニーズ調査、専修学校調査、先行事例調査」 R6 年度
・熊本県内の企業を対象に外国人材・留学生の採用に関するニーズ調査を実施し、企業ニーズの実態を把握した。また就職・定着への具体的なマッチングの情報収集とする。

❶-5. 留学生向け学費・住居費の一時金支援の設置検討 R7 年度
・関東・関西・福岡等に比べて認知度の低い、熊本県へ留学生を受け入れるため、優位性が出る仕組みが重要であるため、一時金支援の検討を行った。
＊R7年度留学生のための独自の一時金支援等を検討したが、熊専各としての設置は難しかった。・各学校、民間企業サービスでの対応とその事例を共有していく。
（例）九州中央リハビリステーション
（例）イデア IT カレッジ阿蘇
（例）GTN（株式会社グローバルトラストネットワークス）サービス

❶-6.多言語パンフレット、動画制作　R7～9 年度
・熊本県の専修学校を広く国内外に発信し、より多くの外国人留学生が熊本県を留学先として認知し、各専修学校の外国人留学生誘致をサポートとするものとして、また熊本県で学ぶ留学生が様々な支援サービスの情報を容易に入手できる多言語パンレット(デジタルパンフ）及び多言語動画を制作した。動画は YouTube にて公開した。

❶-7.SNS 等による情報発信・広告　R7～9 年度
・上記で作成した多言語パンレット(デジタル）、多言語動画を 3 か国に在住する留学生に向けて効果的に、SNS、メディア、パンフレット等を通して情報発信行う。
・SNS、メディア配信、パンフレット作成数：3 か国 8 件

❶-8.ターゲット国での熊本留学フェアの開催　R7～9 年度

・熊本県の専修学校を広く国外に発信し、より多くの外国人留学生が熊本県を留学先として認知してもらうために、熊本留学フェアの開催や、日本留学フェアへ出展した。合わせて、熊本県の魅力を発信、個別の質疑応答、相談を実施。

❶-9.ターゲット国の日本語教育機関及び国内日本語学校との提携　R6～9 年度

・県内の専門学校の専門課程で、ターゲット国の留学生を受け入れる実績を作っていく。
・ミャンマー、モンゴル、台湾の日本語教育機関との提携・継続含む

❶-10. ターゲット国内でのワンストップ情報センターの設置　R7～9 年度

・熊本県における留学・就職情報、奨学金等の補助に関する情報に触れることができるワンストップ情報センターを設置した。単発の熊本県留学フェア・説明会の告知だけではなく、常時、熊本への留学相談や就職等の相談の窓口と合わせて、情報発信の拠点としていく。

② 在学中〔教育指導〕

❷-1.留学生向け日本語能力強化策（多言語学習アプリ運用）　R6～9 年度

・熊本への留学を希望する学生に対して、留学前に日本語能力試験に合格することを目標に、また在学中に生活や仕事についての知識を得ることが出来る学習アプリを運用。在学中に日本語能力を N1、N2 に高めるための自主学習のツールとして有効的に活用。

❷-2.台湾人留学生向け短期滞在受け入れモニター実施　R7～9 年度

・遊学(短期プログラム)を参考に、台湾人留学生受入れを目指したプログラムを実証実施した。

③ 在学中〔在籍管理、生活支援サポート〕

❸-1.教職員向け「在留管理、就職支援セミナー」 R7～9 年度

・学生の受入れ、学生管理、卒業後の進路（就職）に関し、要点を解説することで、留学生管理の一助とする。留学生の就労範囲が拡大される中で、最新の動向を伝える。
・留学生が国内就労する際に必要な在留資格変更に関する基礎的な知識や企業ニーズの現状、学生指導に関する最新情報を教育関係者に提供する。

❸―2. 留学生向け「オンライン就職・生活相談窓口」 R8～9 年度

・「熊本県外国人サポートセンター」と連携して、留学生への活用を促していく。

④ 就職・定着支援

❹-1. 企業・民間団体向け「外国人就職に関する定期的情報提供」 R7～9 年度

・R6 年度企業むけ調査で、外国人材の雇用に関する情報提供を希望する企業(45 社)に、専門学校の卒業生と企業とのマッチングにつながるようサポートを行った。
・行政、民間団体、業界団体、企業、専修学校の外国人材の雇用に関する情報の定期的発信（コンテンツは、各行政、民間団体、業界団体、専修学校のもの）し、留学生・外国人材受入の機運醸成を図った。

❹-2.企業向け「留学生受入れ促進セミナー」 R7～9 年度

・R6 年度企業むけ調査で、外国人材の雇用に関する情報提供を希望する企業(45 社)に、留学生・外国人材受け入れの際の注意事項や就労制度、定着支援に対する理解を深めることを目的に、熊本県「外国人材受入れセミナー」との連携し、後援でセミナー会場内に熊専各のブースを設置し、留学生に関する情報提供を行った。

❹-3. 「留学生就職・定着フェア」への参画 R7～9 年度

・「留学生に選ばれる熊本」を目指して、企業や留学生があつまるイベントで、「熊専各の留学生就職・定着」ブースを出展した。

❹-4. 留学生向け「インターンシッププログラム」支援 R8～9 年度

・専門学校が実施する IT 分野、宿泊分野、介護分野別の職場体験やインターンシッププログラムを企業と留学生に広報等で紹介していき、マッチング支援をする。
・職場体験：夏休み期間中の 1 日～3 日間
・インターンシッププログラム実施：数日間～1 か月程度を想定

（4）上記（3）の取組に付随して実施した取組（実態調査を含む。）

◎事業成果の検証

⑴入学前　⇒⑵在学中〔教育指導〕⇒⑶在学中〔在籍管理、生活サポート〕⇒⑷就職・定着支援が一気通貫した事業となるように PDCA サイクルをまわしていく。

■入学前【受入れ態勢整備】

❶-1. 専修学校向け「新規留学生・受入れ促進の懇談会」開催
❶-2. 専修学校状況アンケート調査」
❶-3. 「企業ニーズ調査、専修学校調査、先行事例調査」
❶-4.「外国人留学生に選ばれる熊本」プランの進捗確認と更新
❶-5. 留学生向け学費・住居費の一時金支援の設置検討

■入学前【情報発信強化】

❶-6.多言語パンフレット、動画制作
❶-7.SNS等による情報発信・広告

■入学前【受入れ促進強化】

❶-8.ターゲット国での熊本留学フェアの開催
❶-9.ターゲット国の日本語教育機関及び国内日本語学校との提携
❶-10. ターゲット国内でのワンストップ情報センターの設置

■在学中〔教育指導、在籍管理、生活支援サポート〕

❷-1.留学生向け日本語能力強化策（多言語学習アプリ運用）
❷-2.台湾人留学生向け短期滞在受け入れモニター実施

■在学中〔生活支援サポート〕

❸-1. 企業・民間団体向け「外国人就職に関する定期的情報提供」
❸-2.企業向け「留学生受入れ促進セミナー」

■就職・定着支援

❹-1. 「留学生就職・定着フェア」への参画
❹-2. 留学生向け「インターンシッププログラム」支援

（5）今年度に取組んだ具体的な内容について

①入学前

❶-1. 専修学校向け「新規留学生・受入れ促進の懇談会」開催

・対象者：県内の留学生受入れを検討する専修学校の経営者・担当者
・回数：リアルとオンラインを併用して 2 回/年
留学生の受入れ促進に向けた意見懇談会の開催　2回
・日時　2025 年 6 月 25 日(水)　 9 名参加
・日時　2026 年 1 月 21 日(水)　 11 名参加

❶-2. 専修学校状況アンケート調査

・専修学校の在留学生、卒業生の状況アンケート調査を、R5 年度、6 年度と同等に行い、受入れ実態を経年的に把握する。
・実施期間：2025 年 6 月 25 日～7 月 31 日
・回答数　：39 件（集計・分析結果は別添）
・内容：留学生の受け入れ希望数、受け入れていくにあたっての問題点・課題、受入れに関する今後の意向
＊留学生数：専修学校在留学生調査から、R6 年度 630 人から R7 年度 822 人と個別の専門学校の留学生数が大幅に上がった。822 人中、ネパールが 675 人（82%）と飛びぬけて多く、次いで、ベトナム 39 人（5%）、中国 23 人（3%）である。
＊ターゲット3か国の留学生は R6 年度 9 人から R7 年度 32 人と確実に増えているが母数は少ないのは課題である。
＊留学生の受入れ学校数は 9 校のままであるが、受入れ学科数は1つ増えて、23 学科となった。なお、新たに受け入れたい意向のある専門学校が 10 校とあるので、県内全体での受入れ学校、学科数の拡大、留学生数の拡大の可能性は十分あるといえる。

❶-3. 「外国人留学生に選ばれる熊本」プランの進捗確認と更新

・令和 6 年度に策定した、県内専修学校の留学生受入れ校、受入れ課程の拡大をおこなうことを目指した、【外国人留学生に選ばれる熊本】プランの進捗確認・更新を行った。
・熊本県及び、KUMOMOTO　KURASU の取組反映と連携確認を行った。
・国際化事業実施委員会等で進捗の確認と関係団体へのヒアリングも実施した。
＊R7 年度から具体的に動き出した熊本県の「外国人材との共生推進本部」と多文化共生の団体「KUMAMOTO KURADU」と合わせて、「外国人留学生に選ばれる熊本」プランの進捗を確認し、今年度は各事業での連携が見られた。

❶-5. 留学生向け学費・住居費の一時金支援の設置検討

・関東・関西・福岡等に比べて認知度の低い、熊本県へ留学生を受け入れるため、優位性が出る仕組みが重要であるため、一時金支援の検討を行った。
＊R7年度留学生のための独自の一時金支援等を検討したが、熊専各としての設置は難しかった。・各学校、民間企業サービスでの対応とその事例を共有していく。
（例①）九州中央リハビリステーション

■留学生スキーム

・介護福祉学科に入学すると、毎月 5 万円～学費全額の奨学金を借りることが可能。また、熊本県の介護福祉士修学資金貸付事業とも組み合わせ、2 つの奨学金を借りることができるスキームになっており、アルバイトを減らして勉学に集中できる環境を整備。

（例②）イデア IT カレッジ阿蘇

■IICA グローバル人材育成奨学金

・日本語能力等優秀な学生に対し、在学中(2 年間)奨学金を支援。奨学金を受けた学生は、奨学会会員企業に就職することで、企業が奨学金を変換し、学生の負担を軽減。また、学生が地元企業に就職し、熊本に留まる仕組みとなる。

（例③）GTN（株式会社グローバルトラストネットワークス）

■家賃保証サービス

・外国人に住居を安心して貸せる、借りられる環境を提供するサービス。入居者へ入居から退去時のサポート、言語サポートを提供し、入居者が家賃を滞納した際は、オーナーに対し保証を行う。

❶-6.多言語パンフレット、動画制作　R7～9 年度

・熊本県の専修学校を広く国内外に発信し、より多くの外国人留学生が熊本県を留学先として認知し、各専修学校の外国人留学生誘致をサポートとするものとして、また熊本県で学ぶ留学生が様々な支援サービスの情報を容易に入手できる多言語パンレット(デジタルパンフ）及び多言語動画を制作した。動画は YouTube にて公開した。

・内容：留学生を受け入れている、検討する専修学校及び熊本の生活環境情報、在留学生のコメント

・多言語 WEB　サイト：TOP ページ、数ページ、動画やパンフをアップ

・多言語パンフレット①：A4 サイズ、カラー、12 ページ、2 言語(日本語、英語)

・多言語パンフレット②：A4 サイズ、カラー、4 ページ、5 言語(日本語、英語、モンゴル語、繁体字、ミャンマー語)

・多言語動画：サイズ　16:9、長さ　4 分 37 秒、、4 言語(英語、モンゴル語、繁体字、ミャンマー語)

・多言語ポスター：A1サイズ、カラー、英語

＊「熊本県・専門学校で学ぶ、住む、就職する」ことを、熊専各の HP 内に留学生用の WEB サイトを作成して、個別に3か国に多言語化した動画・パンレット(デジタルパンフ）を作成して、視覚的に魅力が伝わり、統一感があるものを作成した。

https://kumasenkaku-pr.com/

❶-7.SNS 等による情報発信・広告　R7～9 年度

・上記で作成した多言語パンフレット(デジタル）、多言語動画を 3 か国に在住する留学生に向けて効果的に、SNS・メディア、パンフレット等を通して情報発信行った。

・3 か国の事情に対応したメディアミックスによる広報を行った。

・熊本留学フェアの開催も告知のコンテンツの1つとし、現地の日本語教育委機関と連携して情報発信。
・熊本県内の 3 か国のコミュニティーを通しても情報発信を行う。
・SNS、メディア配信、パンフレット作成数:3 か国 8 件
＊モンゴルでは、日本留学フェアに出展した際に、現地 TV に出演し熊本留学の魅力をアピールした。台湾に関しては、台湾人留学生向け短期滞在受け入れモニターの参加者募集の際に、熊本留学への関心を高めるパンフレットを作成した。ミャンマーへ対しては、ワンストップ情報センターの立ち上げに際し、SNS を開設。そこで、熊本や留学フェアに関する情報を発信した。

❶-8.ターゲット国での熊本留学フェアの開催　R7～9 年度
・熊本県の専修学校を広く国外に発信し、より多くの外国人留学生が熊本県を留学先として認知してもらうために、熊本留学フェアの開催や、日本留学フェアへ出展した。合わせて、熊本県の魅力を発信、個別の質疑応答、相談を実施。
・ミャンマー、モンゴル、台湾　各国 1 回ずつリアルまたはオンラインで開催。
・参加者:熊本県の専修学校、県内外の日本語学校
・実施期間:R7 年 7 月～12 月　各国 1 回ずつ開催
・ミャンマー:8 月 28 日　オンライン熊本留学フェア開催
・モンゴル　:9 月 6、7 日　FUJI EDU MONGOLIA の日本留学フェア内でブース出展
・台湾　　:9 月 20、21 日　日本留学フェア(台湾)内で PR 紹介
＊モンゴルでの日本留学フェアでは、1,000 人を超える参加者がある中で、「熊専各の特設ブース」を設けて、200 人を超える着席を促した。その中から来年度、熊本の専門学校に入学予定の学生もでている。ミャンマーについてはオンラインでの開催、台湾においては、日本留学フェアでの出展、高校訪問を行った。

❶-9.ターゲット国の日本語教育機関及び国内日本語学校との提携　R6～9 年度
・県内の専門学校の専門課程で、ターゲット国の留学生を受け入れる実績を作っていく。
・ミャンマー、モンゴル、台湾の日本語教育機関との提携・継続含む
各国訪問・連携強化
・モンゴル　　FUJI EDU MONGOLIA を含む3機関
・ミャンマー　J Compass を含む3機関
・モンゴル、 ミャンマーの学生を受け入れる県外日本語学校　2 校、
・台湾　　日学館留学センター、高雄市立六亀高級中学を含む 14 機関

❶-10. ターゲット国内でのワンストップ情報センターの設置　R7～9 年度
・熊本県における留学・就職情報、奨学金等の補助に関する情報に触れることができるワンストップ情報センターを設置した。単発の熊本県留学フェア・説明会の告知だけではなく、常時、熊本への留学相談や就職等の相談の窓口と合わせて、情報発信の拠点としていく。併せて、熊本県との連携を図り、相談窓口を設け、留学から就職までの一貫した

サポート体制を構築。
・ミャンマー　J Compass
・モンゴル　FUJI EDU MONGOLIA
・台湾　　日学館、UF JAPAN,東禾外国語学校　3 か所

②在学中〔教育指導〕

❷-1.留学生向け日本語能力強化策（多言語学習アプリ運用）　R6～9 年度

・熊本への留学を希望する学生に対して、留学前に日本語能力試験に合格することを目標に、また在学中に生活や仕事についての知識を得ることが出来る学習アプリを運用。在学中に日本語能力を N1、N2 に高めるための自主学習のツールとして有効的に活用。
・実施期間：R7 年 8 月～2 月
・学習コンテンツ：（日本語学習）全 5,500 問、（日本の　生活・　就職マナー）全 430 問
・対応言語(9 言語)：日本語、ミャンマー語、モンゴル語、中国語（繁体）、英語、中国語（中文）、ベトナム語、インドネシア語、ネパール語対応。前年度作成したアプリを利用する。
・アプリ提供数：200 アカウント
＊県内の専門学校の留学生に 200 アカウントを提供して、多言語学習アプリを導入して、利用してもらい、利用状況等を調査した。

❷-2.台湾人留学生向け短期滞在受け入れモニター実施　R7～9 年度

・遊学(短期プログラム)を参考に、台湾人留学生受入れを目指したプログラムを実証実施した。
・内容：学校見学、進学説明会、熊本観光&文化&自然体験、専門学校生との交流イベント
・実施期間：R8年 2 月4～7 日（3 泊 4 日）
・参加者：16 人(高校生 14 名、教師 2 名)
＊アンケート調査を行い、次年度以降のプログラム本格始動に向けて検証。満足度は大変高く、台湾の高校での評判もよく、R8 年度の夏に第 2 弾を要望されるほど、反響であった。アンケート結果から、「授業・講義体験」を求める意見が多く上がったことを参考に、次回実施に向けプログラムのブラッシュアップをおこなっていく。また、専修学校への入学につながるプログラムの構成、参加者募集が今後の課題である。

③ 在学中〔在籍管理、生活支援サポート〕

❸-1.教職員向け「在留管理、就職支援セミナー」　R7～9 年度

・学生の受入れ、学生管理、卒業後の進路（就職）に関し、要点を解説することで、留学生管理の一助とする。留学生の就労範囲が拡大される中で、最新の動向を伝える。
・留学生が国内就労する際に必要な在留資格変更に関する基礎的な知識や企業ニーズの現状、学生指導に関する最新情報を教育関係者に提供する。
・対象者：留学生を既に受入れている、今後検討している専修学校の教職員
・開催数：リアル・オンラインにて 1 回実施(2025 年 12 月 12 日開催)

④就職・定着支援

❹-1. 企業・民間団体向け「外国人就職に関する定期的情報提供」 R7～9 年度

・R6 年度企業むけ調査で、外国人材の雇用に関する情報提供を希望する企業(45 社)に、専門学校の卒業生と企業とのマッチングにつながるようサポートを行った。

・行政、民間団体、業界団体、企業、専修学校の外国人材の雇用に関する情報の定期的発信(コンテンツは、各行政、民間団体、業界団体、専修学校のもの)し、留学生・外国人材受入の機運醸成を図った。

・「外国人留学生に選ばれる熊本」プランとも連動して、行政、民間団体、業界団体、企業と専修学校とで定期的にコミュニケーションをとった。

・ニュースレターの発行:2026 年 7 月、11 月、12 月、2 月

❹-2.企業向け「留学生受入れ促進セミナー」 R7～9 年度

・R6 年度企業むけ調査で、外国人材の雇用に関する情報提供を希望する企業(45 社)に、留学生・外国人材受け入れの際の注意事項や就労制度、定着支援に対する理解を深めることを目的に、熊本県「外国人材受入れセミナー」との連携し、後援でセミナー会場内に熊専各のブースを設置し、留学生に関する情報提供を行った。

・開催数:セミナー2 回開催。ブース設置 1 回(2025 年 11 月 14 日)。

❹-3. 「留学生就職・定着フェア」への参画 R7～9 年度

・「留学生に選ばれる熊本」を目指して、企業や留学生があつまるイベントで、「熊専各の留学生就職・定着」ブースを出展した。

・熊専各の国際化事業の取組みをブース出展又はシンポジウム等で紹介。

・実施数:「観光経営塾」(熊本県主催)での情報発信(2026 年 1 月 14 日)
KUMAMOTO KURASU 主催「つながる くまもと」への出展(2026 年 1 月 17 日)

【R7年度の課題と総括】

＊ターゲット国の追加:中国

今後、多国籍からの留学生数を増やしていくことを念頭に、本事業では、ターゲット国の追加をすることが可能である。

そこで、国別で全国の留学生の割合(36%)に比べて、熊本県の割合が少ない(3%)国、熊本県内の新規の日本語学校等で獲得が期待される国として、中国を 4 か国目のターゲット国としたい。現在の政治情勢等では厳しい局面もあるが、一方この時期から、新規の窓口を設けていくことも重要であると考えている。

＊ターゲット分野の拡充検討

今後、ターゲット 3 分野(宿泊、介護、IT)以外で留学生を受け入れられないか(工業分野等)の検討を行い、取り組みの幅自体を拡大する可能性も行っていきたい。

＊日本語学校の連携の拡充

第一段階で留学生を受け入れる日本語学校（日本語課程）が少ないのは、引き続き大きな課題である。熊本県外の日本語学校との連携や新規の日本語学校への働きかけをおこなっていく。

＊台湾、短期モニタープログラムの拡充
・今年度、好評であった台湾・短期モニタープログラム（3 泊 4 日）を R8 年度の夏に第 2 弾で企画し、募集、催行を行う。台湾の高校生を対象に、専門学校や大学見学、進学説明会、熊本観光&文化&自然体験、専門学校生との交流イベントを行う。
・第 2 段では、短期滞在プログラムの継続性を念頭に、現地や熊本県内での受入れの機関と提携を行い、仕組み化を検証していく。

＊就職・定着支援の拡充
・熊本県内の留学生が、熊本県内の企業に就職する割合が高くない（アンケート結果 3 割）、就職者数 14 人。この県内企業への就職・定着支援を拡充していく。
・留学生を受け入れに関心のある企業向けに、就職・採用状況、就労制度、出身国の文化・宗教に対する理解を深めるセミナーと熊専各や専門学校のブースも設置した説明会を併設する。熊本県が主催する「外国人材受入れセミナー」との連携も図りながら就職・定着支援を行う。

〇事業を実施する上で設置する会議

会議名	国際化事業実施委員会		
目的・役割	業界団体・企業、行政、教育機関からなるメンバーで委員を構成し、本事業の進捗に関するアドバイスをいただく機関とする。		
検討の具体的内容	・⑴入学前　⇒⑵在学中〔教育指導〕⇒⑶在学中〔在籍管理、生活サポート〕⇒⑷就職・定着支援の各事業に対する助言。 ・人材ニーズ調査等の各団体への働きかけ、広報。 ・各事業は相関しており、成果の活用と PDCA サイクルの進捗管理、スケジュールへのアドバイス。		
委員数	10 人	委員数	年間 3 回

【委員構成】

氏名	所属名	役割・協力事項
木庭　順子	熊本県専修学校各種学校連合会　会長	主宰者
赤山　聖子	熊専各副会長、九州技術教育専門学校　校長	IT 分野・受入れ、在学中の教育
志垣　伸太郎	熊専各副会長、九州中央リハビリテーション学院　専務理事	介護分野・受入れ、在学中の教育
伊藤　眞太郎	熊専各理事、専修学校熊本 YMCA 学院　校長	宿泊分野・受入れ、在学中の教育
西島　真一	熊本工業専門学校　校長	日本語 IT 分野受入れ、在学中の教育
竹島　加奈子	専修学校熊本壺溪塾　水前寺校副校長	日本語受入れ、在学中の教育(予定)
富山　孝治	熊本県情報サービス産業協会　幹事	IT 分野・ニーズ調査、就職先・定着支援
永田　祐介	熊本県旅館ホテル生活衛生同業組合　専務理事	宿泊分野・ニーズ調査、就職先・定着支援
石本　淳也	熊本県介護福祉会　会長	介護分野・ニーズ調査、就職先・定着支援
木下　俊和	JICA 九州　熊本県国際協力推進委員	県内外国人と企業の繋がりのネットワーク

【オブザーバー】

氏名	所属名	役割・協力事項
吉仲　範恭	熊本県　国際課　課長	国際交流団体との連携
中嶋　崇	熊本県　商工労働部　商工政策課　審議員	業界・企業との連携・調整
西村　徹	熊本県　健康福祉部　高齢者支援課　審議員	介護団体・企業との連携・調整

会議名	第 1 回委員会		
日時	2025 年 6 月 18 日 14:00～15:30	場所	壺溪塾 坪井本校
出席者	■委員 熊本県専修学校各種学校連合会　会長　木庭 順子氏／熊専各副会長、九州技術教育専門学校　校長　赤山 聖子氏／熊専各副会長、九州中央リハビリテーション学院　専務理事　志垣 伸太郎氏／専修学校熊本 YMCA 学院　留学生担当 宮崎 正弘氏／熊本工業専門学校　校長　西島 真一氏／専修学校熊本壺溪塾　水前寺校副校長　竹島 加奈子氏／熊本県情報サービス産業協会　幹事　富山 孝治氏(オンライン)／熊本県旅館ホテル生活衛生同業組合　専務理事　永田 祐介氏 ■参加者 熊本駅前看護リハビリテーション学院　川上 勝美氏／熊本外語専門学校　高橋 尚子氏／JICA 国際教育交流センター 推進員　ヴィルヘルム・ヨハネス氏／JICA 国際教育交流センター 推進員　尾上 香織氏／JICA 国際教育交流センター 県立大連携　田上 佳代氏 ■オブザーバー 熊本県 国際課参事・国際政策班　岩下 協子氏(オンライン)／熊本県 商工労働部 商工政策課　審議員　中嶋 崇氏(オンライン)／熊本県 健康福祉部 高齢者支援課　審議員　西村 徹氏(オンライン)／熊本県 健康福祉部 高齢者支援課　参事 古閑 莉沙子氏(オンライン)／熊本国際日本語学校校長　前田 和則氏／ ■事務局 熊本県専修学校各種学校連合会　事務局　鋤崎 麻理／イデアパートナーズ株式会社　井手 修身／イデアパートナーズ株式会社　今井 走／イデアパートナーズ株式会社　田村 菜実 ■委託事業者 株式会社くまもと DMC　宮田 誠氏／株式会社くまもと DMC　熊部 紀衣子氏		
議題	●事業計画の説明 ●熊本県専修学校各種学校連合会の参加状況について ●熊本県からの情報提供		
議事内容	(熊専各会長　木庭氏より挨拶) (参加者紹介) (事業内容の説明) ■ヨハネス氏：ニュースレターの締切はいつまでか。 一事務局：締切は 1 か月前程度を想定している。 ■木庭氏：ターゲット国からの留学生受入れが大きな課題。具体策を練らないといけない。 ターゲット国の留学生をどう入れていくかを議論しないと進まない。 ■志垣氏：モンゴルでの留学フェア実施について ・10 月以降に関しては入学時期を考慮するとビザの申請が難しいため、 9 月上旬での留学フェア開催を検討している。 ・既存の日本留学フェアへの参加を考えており、FUJI EDUCENTER を検討。 FUJI EDU では、昨年度の参加者は 766 名、日本への留学申請巣は 100 名以上の実績がある。 ・熊本留学フェアの単独開催は集客が難しい恐れがあるので、既存のフェアに参加することが有効的。 ・専門学校に直接入学できる日本語能力 N2 を持っている学生は少ないので、最初の受け入れ先である国内の日本語学校の参加も必要。		

■木庭氏

・熊本県の日本語学校が少ないことが課題。県外の日本語学校とも連携していかないと実現しないと思う。

―志垣氏：モンゴルは学生が一気に増えるわけではないので、県内の日本語学校全体で 20～30 名ほど枠があればいい。

■宮崎氏

・YMCA の日本語科では秋入学の学生は JLPT 試験時期との兼ね合いで就職の際に N4 程度しか取得できずに不利になる。

・1 年半課程の学生で言語レベルが低い層をどのように救い上げるかが就職の際に重要。

■高橋氏

・やりたいことは決めているが、具体的な専門学校は日本に来てから決める学生が多い傾向にある。入学後、秋ぐらいから進学先を考え始める。

・ターゲット国の中で日本の専門学校に行きたい層は少ないかもしれない。ミャンマー、ネパール、スリランカは多い。

・本校の学生の特徴は、県内進学者が多いが受入れが可能な学校が少なく、県外進学を視野に入れないといけない。

・県内就職希望者の人気職種は、車(九州工科、工業専門)、介護(九州リハ)、ビジネスホテル(YMCA、湖東カレッジ)。

・ミャンマーからの問い合わせは多いが、枠の問題もあり断っている状況。

■西島氏

・留学生の 6 割が県内進学。国籍別では 9 割がネパール人。就職については全体の 4 割は熊本への定着を望む学生。

・新規国の学生を受入れる気持ちはあるが、現場では母国語が話せる職員がいないと受入が難しい。生活面の支援や契約補助で母国語が話せる職員の引率が必要。

■宮崎氏：台湾について

・台湾、モンゴルに関しては大学と連携することが良いのでは。専門学校卒業後、大学編入を目指すし、ゼミでは日本語、英語どちらも学ぶことができる環境が。それが強みになるのでは。

―木庭氏：熊本にも魅力的な大学がある。専門学校から大学に編入後、県内就職すればいいと思う。

■事務局

・台湾の場合は遊学として短期プログラムでの受入を検討している。

―宮崎氏：台湾は、ビリヤードが盛んで、国技になりつつある。熊本にもビリヤードの選手はいるので、熊本と台湾でビリヤード留学などの違う視点からの人招く方法もあると思う。

■ヨハネス氏

・中期的で持続的なやり方として、県内就職をした学生には、インセンティブも必要だと考える。

（熊本県専修学校各種学校連合会の参加状況について）

・鋤崎氏より資料をもとに説明

■木庭氏

・留学生を要していない専門学校も多く、どのように参画すればいいかわからないという学校もあると思うので、セミナーのような勉強会もできればいい。

（専修学校の留学生受入れ　実態調査について）

・事務局より説明

（熊本県からの情報提供）

・岩下氏、中嶋氏、西村氏より資料をもとに説明

・事業計画の留学生就職・定着フェアに記載されている産業エキスポについて、今年度は民間での開催を検討しているため、開催時期は未定。

・レオパレス 21 との提携の対象は、県内企業へ就職した外国人の方が対象

■永田氏　宿泊業について

・インバウンド客数が増えており、コロナからの急速な回復で宿泊産業は人手不足。日本人の採用が難しい中で外国人材は重要になっている。

・福岡の専門学校からインターンシップを受け入れ、入社につなげている。

・台湾は大学と連携し、インターンシップ(半年、1 年)で受け入れている。

・卒業後の就職先については、学校から情報が出ていないので学校と企業でマッチングをする場があまりないと感じる。どんな人材がいるのかを事前に協議ができればいい。組合とのマッチングを図ることが可能。

・N4 以上の方を特定技能 1 号で就労させ、1 年後に 2 号の試験を受けるというスキームを構築している。

・特定技能、技能実習、技人国で就労が可能な業種なので、在留資格によってできる業務内容が違うため、どの在留資格で送り出すかを整理が必要。

■富山氏　IT 産業について

・インターンシップで、学生の性格を見極めて採用することが多い。スキルの高さより意欲の高さを重視することがある。

・1 企業でも留学生受入れの先行事例を作って、会員企業にも広報することが効果的。

・外国人材の採用について情報を取りまとめて発信してくれる場があれば便利だと思う。

■事務局

・日本人と同じ環境で学べる留学生を入学させるスキームをしているので、留学生未受入れ校でも検討をしてほしい。

・県外日本語学校からの受入れについて、どのように学生を導いてくることができるかが重要。

会議名	第 2 回委員会		
日時	2025 年 11 月 27 日 13:30～15:30	場所	九州中央リハビリテーション学院
出席者	■委員 熊本県専修学校各種学校連合会　会長　木庭 順子氏／熊専各副会長、九州技術教育専門学校　校長　赤山 聖子氏／熊専各副会長、九州中央リハビリテーション学院　専務理事　志垣 伸太郎氏／熊本県情報サービス産業協会　幹事　富山 孝治氏(オンライン)／熊本県旅館ホテル生活衛生同業組合　専務理事　永田 祐介氏 ■会員校 専修学校熊本壺溪塾　教務　林 千紗子氏／九州中央リハビリテーション学院　野島 謙一郎氏 ■オブザーバー 熊本県 国際課参事・国際政策班　岩下 協子氏(オンライン)／熊本県 商工労働部 商工政策課　審議員　中嶋 崇氏(オンライン)／熊本県 健康福祉部 高齢者支援課　審議員　西村 徹氏(オンライン)／熊本県 健康福祉部 高齢者支援課　杉田氏(オンライン)／熊本国際日本語学校校長　前田 和則氏／JICA 国際教育交流センター 推進員　ヴィルヘルム・ヨハネス氏 ■事務局 熊本県専修学校各種学校連合会　事務局　鋤崎 麻理／イデアパートナーズ株式会社　井手 修身／イデアパートナーズ株式会社　今井 走／イデアパートナーズ株式会社　田村 菜実 ■委託事業者 株式会社くまもと DMC　宮田 誠氏／リクルーティングパートナーズ株式会社　重松 哲氏		
議題	●事業計画の進捗報告 ●ターゲット国での熊本留学フェア等の訪問報告 ●「外国人留学生に選ばれる熊本」プランの進捗確認 ●その他の成果品、告知等		
議事内容	(熊専各会長　木庭氏より挨拶) 昨年度から実施している本事業もだんだんと進んでいると感じる。ご協力の皆様にも感謝している。 （事業計画書の全体進捗状況） （専修学校の在留学生、卒業生状況アンケート調査の説明） ■ヨハネス氏：県外就職の割合が高くなったことについて、日本円が安くなっており、経済的に厳しくなってきたので、金銭的な理由で賃金が高い県外への就職が多くなってしまったのではと考える。 熊本の生活費の安さを訴えれば県内にとどまってくれる戦略になると考える。 ■志垣氏：県内・県外就職の職業のジャンルが知りたい。 →事務局：学科であれば集計を出すことは可能 （ターゲット国での熊本留学フェア等の訪問報告） 〈モンゴル〉 今井より資料をもとに説明 ■野島氏：参加者の印象は、日本語能力については様々な方がいた。日本での就職を希望する方もいた。		

■木庭氏：ブース出展では、明確に留学の目的を持った参加者もいた。熊本の宣伝ができたと思う。フェア後 FUJI の担当者が熊本を訪問された。

■事務局：本校に入学予定の 3 名は昨年度訪問した JOTO EDUCATION CENTER からのつながり。日本語能力は高い。今後熊本の日本語学校から、県内就職という流れを作れたらいい。

〈ミャンマー〉

留学フェアの需要はあるが、支弁能力の点で課題がある方もおり、願書の受付は無い。

〈台湾〉

■木庭氏：モンゴル、台湾は学歴社会で専門学校へはあまり向いていないので、大学留学・視察と合わせた短期プログラムを企画した。2 月に台湾人留学生向け短期プログラムを実施予定。

台湾と熊本の高校はかなり交流が深いため、県内高校に交流されている台湾の高校を紹介をいただき、今年度訪問した。

2 月に 1 回目のプログラムを予定。参加学生 14 名、先生 2 名の申込。目標は 20 名。7 月にはもう少し長い期間で短期プログラムを組めないか模索中。

（「外国人留学生に選ばれる熊本」プランの進捗確認）

（その他の成果品、告知等）

くまもと DMC より資料をもとに説明

〈HP について〉

・ターゲット国の言語に対応。

〈動画〉

・長編動画を言語別に作成、生活・就職がイメージできる内容。

・短編動画は学生のインタビューが中心の内容。SNS 広報に利用できる規格で制作。

〈パンフレット〉

・ダイジェスト版、本編(12P)の 2 種類を制作。

■志垣氏

・パンフレット「留学生向け支援制度」「行政サービス」はどのような情報を記載すればいいか、案をいただきたい。

→ヨハネス氏：県であれば、熊本県外国人サポートセンターの問い合わせ先が適切。市であれば国際交流センター。

→岩下氏：サポートセンターを記載いただく分は問題なし。サポートセンターから具体的な支援先につながる流れになっている。

→事務局：留学生向けの情報は現地国に設置しているワンストップ制度を記載。

→宮田氏：在留者向けの熊本県 24 時間多言語コールセンターがある

→ヨハネス氏：菊池市では 119 番で多言語対応が可能な緊急連絡システムがある。

→杉田氏：プランで❸－12　技能実習生や外国人留学生等の日本語学習、資格取得等への支援と記載している通り、介護福祉士を目指す留学生への日本語学習支援、外国人留学生奨学金支給支援をしているので、追記可能。

→ヨハネス氏：心のよりどころがあるということは、頼りになると思う。熊本の外国人コミュニティは多いので、記載すると良いかもしれない。

〈教職員向けの留学生受入れセミナー〉

重松氏より資料をもとに説明

〈外国人材受入セミナー(熊本県との連携）〉

県主催の外国人受入の関する企業向けセミナーで熊専各のブースを設置している。

■重松氏：観光業の経営者向けのセミナーを実施。

〈KUMAMOTO　KURASU シンポジウムへの出展〉

ヨハネス氏から説明

■岩下氏：国際化としては外国人が増えていることで、不安を寄せられている現状があるが、多文化共生は日本人にとっても重要なことと認識している。

■杉田氏：人材確保の観点で引き続き外国人材の受入を進めていきたい。

■富山氏：企業の受入側が、実態を知っていきたい。外国人材の離職率を調べてみたい。

■ヨハネス氏：10/6 の外国人と共生推進会議にてアクションプランの素案が出た。受入企業側も受け入れの意識が必要。最新の情報が公開されるので完成したら中身を見てみてほしい。

■永田氏：インバウンドの需要は伸びている県である。外国人材の活用は観光業には不可欠。

中国からの渡航の団体は、減っていると聞いているが、個人客には影響は感じない。一方で地震の影響でインバウンド客からのキャンセルの影響が大きい。

■赤山氏：台湾の短期プログラムへの関心が高いようで安心した。

会議名	第 3 回委員会		
日時	2026 年 2 月 18 日 13:00～14:30	場所	九州中央リハビリテーション学院
出席者	■委員 熊本県専修学校各種学校連合会　会長　木庭 順子氏／熊専各副会長、九州技術教育専門学校　校長　赤山 聖子氏／熊専各副会長、九州中央リハビリテーション学院　専務理事　志垣 伸太郎氏／専修学校熊本 YMCA 学院　校長　伊藤 眞太郎氏／熊本県情報サービス産業協会　幹事　富山 孝治氏(オンライン)／熊本県旅館ホテル生活衛生同業組合　専務理事　永田 祐介氏(オンライン)／熊本県介護福祉会　会長　石本 淳也氏 ■会員校 専修学校熊本壺溪塾　教務　林 千紗子氏 ■オブザーバー 熊本県 国際課参事・国際政策班　岩下 協子氏(オンライン)／熊本県 商工労働部 商工政策課　審議員　中嶋 崇氏(オンライン)／熊本県 健康福祉部 高齢者支援課　上野 琉華氏(オンライン)／熊本国際日本語学校校長　前田 和則氏 ■事務局 熊本県専修学校各種学校連合会　事務局　鋤崎 麻理／イデアパートナーズ株式会社　井手 修身／イデアパートナーズ株式会社　田村 菜実		
議題	●令和 7 年度事業の進捗と総括 ●台湾プログラムの実施報告 ●R 7 年度の課題と総括 ●意見交換		
議事内容	（熊専各会長　木庭氏より挨拶） 短期プログラムの受入を今年度実施した。引き続き、皆様のご協力をお願いしたい。 （令和 7 年度事業の進捗と総括） （台湾プログラムの実施報告） ■木庭氏：モニターツアーという位置づけで実施。次回は 7 月頃に 9 日間程度のツアーを検討している。9 日間の実施であれば、専門学校への訪問もプログラムに組み込み、専門学校に入学できるような流れにしたい。来年度の料金設定についても検討したい。観光をする学生もいたので、熊本に落ちるお金も多いと思う。アンケート結果から、語学を学びたい、大学進学を希望する傾向が高いこともわかる。 ■林氏：プログラムに同行していたが、日本人学生たちとの交流もあり、満足度は高かったと思う。 (R 7 年度の課題と総括) ・次年度は中国もターゲットにしてはどうかと検討中。また分野についても拡大を視野に入れている。 ・福岡の日本語学校との連携、新規で開校する熊本の日本語学校との連携を次年度は行っていきたい。 ・台湾は短期プログラムの継続性を念頭に置き、仕組みを作る。 （意見交換）		

■赤山氏：台湾プログラムについて、専各としてどのように専修学校への入学につなげるか。

―木庭氏：台湾では専門学校に対する認知が低いので、プログラムの中で専門学校への訪問も組み込みたい。滞在時間を長くできると専修学校にも訪問できる時間が取れる。

―赤山氏：専修学校に入学される方は、日本で就職するのか。大卒ではないので大学を卒業してから専門学校に行くのか。

―事務局：台湾にいる専門学生は、日本語課程等の語学を学びたい方。高校生を対象とした大学進学のための、専門学校を経由するという流れも考えられる。

■伊藤氏：台湾の方は、短期留学で文化を学びたい方が多い。既に日本にある日本語学校から学生を呼ぶ方が、専門学校への入学につながるのではないか。台湾プログラムについて、専各連として今回の内容は整合しているのか懸念。

■石本氏：ミャンマー、ネパールからの受入が多い。それ以外の国も受け入れはできる。専門学校に留学生が増え、その方が熊本に就職をしてくれると良いと思う。そもそもその傾向がない国の方を受入れるのは、業界として難しいと考える。

（令和 8 年度事業計画）

・ターゲット国の追加を「中国」としている理由は、「熊本国際日本語学校」の認可がおりる予定で、今年の 10 月から開校予定のため、中国からの留学生が増えることが予測される。全国的には中国かあの留学生数は多いが、熊本では割合が少ない。

■前田氏：中国とのパイプを持っているので、中国からの留学生の受入れを進めていく。専修学校への輩出も目指したい。政治的な状況はあるが、日本留学フェアが上海で実施されている状況もあり、民間レベルの交流は実際は行われている。

■木庭氏：熊本に中国人留学生が少ない理由は、都会を目指す傾向があるからか。

―前田氏：都会に住んでいる人でも、熊本の環境をきちんと説明すれば興味を示す人はいると思う。

■富山氏：外国人が辞める理由は、トラブル等ではなく、結婚が多い。コンサルファームが上位を採ってしまう、中間層は人が足りない。

■永田氏：年間 2～3 名台湾からのインターン受け入れを行っている。昨今はビザの申請に時間がかかるようになった。就労ビザの審査が厳しくなってきていると感じるため、現在、日本にいる外国人を受け入れていく必要があると思っている。政府が掲げるインバウンドの数値についても、働き手がいないので業界としては外国人の受入が必要になる。特定技能で雇用する事業者が多い。

■中嶋氏：国から外国人受入の対応策が出ている。ルールを守り共に反映する社会を目指す。特定技能、技能実習は上限を設けるということも記載がある中、技人国の受入を進めていただいていることに感謝している。商工会議所でもインターンシップの受入をしているので、参考になるかもしれない。来年度は産業エキスポの開催を目指し、協議をしている。開催が決まればお知らせする。

■赤山氏：中国を追加するとのことだが、分野はどのようにするのか。

―事務局：熊専各で受け入れられる学科で受入予定。

■上野氏：外国人の受け入れについては、現在、日本語学習の支援や住居借り上げにかかる支援、技能実習生や特定技能の方を対象とした、集合研修等を行っているところです。今後も外国人介護人材のニーズが高まってくる中で、引き続き支援を行っていきたいと思っています。

（6）事業実施に伴うアウトプット（成果物）

	取組み事項	成果と内容 令和 7 年度(2 年目)
①入学前	1. 専修学校向け「新規留学生・受入れ促進の懇談会」開催	懇談会 2 回開催(1 回目 9 名参加、2 回目 11 名参加)
	2. 専修学校状況アンケート調査	39 件回収、留学生受入れ校 9 校、留学生数 822 名、 内ミャンマー・モンゴル・台湾の留学生 32 名。
	3. 「外国人留学生に選ばれる熊本」プランの進捗確認と更新	各種団体へのヒアリングによる、プランの進捗確認と更新
	5.多言語パンフレット、動画制作	多言語 WEB　サイト(熊専各 HP 内) 多言語パンフレット：2 言語 多言語パンフレット(ダイジェスト)：5 言語 多言語動画：4 言語
	6.SNS 等による情報発信・広告	3 か国 8 件(SNS、メディア、パンフレット)
	7.ターゲット国での熊本留学フェアの開催	ミャンマー：1 回(オンライン) モンゴル：1 回(現地) 台湾：1 回（現地）
	8.ターゲット国の日本語教育機関及び国内日本語学校との提携	ミャンマー：5 機関(連携強化) モンゴル：5 機関(連携強化) 台湾：14 機関（現地訪問）
	9. ターゲット国内でのワンストップ情報センターの設置	ミャンマー：1 箇所(継続) モンゴル：1 箇所(継続) 台湾：3 箇所(新規含む)
②在学中 〔教育指導〕	1.留学生向け日本語能力強化策（多言語学習アプリ運用）	アプリ提供数：200 アカウント
	2.台湾人留学生向け短期滞在受け入れモニター実施	モニター1 回開催
③ 在学中 〔在籍管理、生活支援サポート〕	1.教職員向け「在留管理、就職支援セミナー」	セミナー1 回開催
④就職・定着支援	1. 企業・民間団体向け「外国人就職に関する定期的情報提供」	ニュースレター4 回発行
	2.企業向け「留学生受入れ促進セミナー」	セミナー2 回、熊専各ブースの出展 1 回
	3. 「留学生就職・定着フェア」への参画	企業や留学生が集まるイベントでのブース出展 2 回

○海外出張

出張国	①モンゴル
目的	モンゴルの留学生を熊本県の専門学校および日本語学校で受け入れることを目的に、 FUJI EDU MONGOLIA 主催の日本留学フェアに出展し、学校説明や留学相談対応を 行った。
日程	2025 年 9 月 6 日～7 日
人数	3 名
所属学校・役所曲名 及び氏名	一般社団法人熊本県専修学校各種学校連合会　会長／学校法人熊本壺溪塾　理事長　木庭順子 一般社団法人熊本県専修学校各種学校連合会　委員／学校法人立志学園九州中央リハビリテーション学院　野島謙一郎 一般社団法人熊本県専修学校各種学校連合会　委員／学校法人熊本壺溪塾　企画部長　竹島加奈子
出張先での 具体的取り組み内容	・モンゴル国内にて熊本県の専修学校を広く発信し、より多くのモンゴル人留学生が熊本県を留学先として認知してもらうために、日本留学フェアにて熊本県ブースを設け、情報発信を行うとともに、熊本県への留学を見据えた相談対応を行った。 ・また、モンゴル国内での熊本への留学に関するワンストップ情報センターの設置、情報発信媒体の立ち上げを FUJI EDU MONGOLIA に依頼。 ■留学フェア ・開催日時：2025 年 9 月 6 日(土)、 7 日(日) モンゴル時間 12:00～16:00 ・会場：Blue Sky Hotel Tower ・主催者：FUJI EDU MONGOLIA ■参加学校・来場者情報 【参加学校】 ○専門学校：壺溪塾、九州中央リハビリテーション学院、熊本 YMCA 学院 ※連携校：イデア IT カレッジ阿蘇、 GAG 日本語学校、福岡国際学院 【全体参加状況】 ◆来場者数：9 月 6 日(土)　→　５４９名 9 月 7 日(日)　→　４９２名
課題と所感	・モンゴルでは、1 年目で提携を深めた日本語教育機関 FUJI EDU MONGOLIA 社が主催する「日本留学フェア」に出展し、学校説明や留学相談対応を行った。 ・当日は、熊本県専修学校各種学校連合会の「特設ブース」を設置し、6 校の紹介を行った。2 日間で 1,000 人を超える来訪者ががある中で、「特設ブース」には 200 人を超える着席を促し、熊本県の魅力、各学校の紹介等を行い、熊本県への留学の機運を高めることができた。 ・来訪者の中から来 8 年度、熊本の専門学校に入学予定の学生も実際にでてきている。
所要額	442,162 円

出張国	②台湾（1）
目的	◆台湾留学生の誘致: 台湾の高校生、大学生に対して熊専各の魅力を直接伝え、留学への関心を高める。 ◆現地調査: 台湾における熊本留学への関心度、具体的なニーズを直接把握し、募集戦略の策定に役立てる。 ◆情報収集: 競合となる日本の教育機関や、現地での留学プロモーションの動向に関する情報収集を行う。また熊本の専門学校の集客を図るための具体的な施策を考察し、次年度以降の活動へつなげる。
日程	2025 年 9 月 20 日～21 日
人数	3 名
所属学校・役所曲名 及び氏名	一般社団法人熊本県専修学校各種学校連合会　会長／学校法人熊本壺溪塾　理事長　木庭順子 一般社団法人熊本県専修学校各種学校連合会　委員／学校法人熊本壺溪塾　企画部長　竹島加奈子 一般社団法人熊本県専修学校各種学校連合会　事務局　鋤崎麻里
出張先での 具体的取り組み内容	台湾留学生の誘致、及びニーズ調査を目的として留学フェアにてブース出展を実施。 また、本事業の取り組み事項③－４「台湾人留学生向け短期滞在受け入れモニター実施」において造成したプログラムの情報発信及びモニターの獲得を目的として、台湾の各地域の学校を訪問し、現状のニーズ等も含め意見交換を行った。 ■教育機関訪問 9 月 18 日　日学館留学センター 9 月 19 日　僑泰高級中学 東禾国際外語学校 UF JAPAN 日本留学中心 ■留学フェア ・フェア名：2025 日本留学フェア（台湾） ・開催日時：2025 年 9 月 20 日(土)、21 日(日) 台湾時間　11:00～17:00 ・会場：台北世界貿易センター ・主催者：独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）
課題と所感	・高校生へのアプローチの課題: 短期留学の場合、学校の許可が必要となる例もあることが判明した。そのため、生徒や保護者への直接的なアピールだけでなく、まずは教師が短期留学を「体験」し、その安全性や教育効果に確信を持てるような情報提供やプログラムが必要である。 ・短期留学のスケジュール: 参加しやすい環境を作るためには、短期留学前後のスケジュールは、現地の学生の学業スケジュールや各家庭のイベントに合わせ、自由度が高い方が好まれる傾向にある。 ・ターゲット層の拡大: 高校生だけでなく、留学への意思決定の自由度が高い大学生や一般社会人も重要なターゲットとして捉え、積極的にアプローチすべきである。

出張国	②台湾（2）
目的	◆現地調査: 台湾における熊本留学への関心度、具体的なニーズを直接把握し、募集戦略の策定に役立てる。 ◆情報収集: 競合となる日本の教育機関や、現地での留学プロモーションの動向に関する情報収集を行う。また熊本の専門学校の集客を図るための具体的な施策を考察し、次年度以降の活動へつなげる。
日程	2025 年 10 月 28 日～11 月 2 日
人数	3 名
所属学校・役所曲名 及び氏名	一般社団法人熊本県専修学校各種学校連合会　会長／学校法人熊本壺溪塾　理事長　木庭順子 一般社団法人熊本県専修学校各種学校連合会　委員／学校法人熊本壺溪塾　企画部長　竹島加奈子 一般社団法人熊本県専修学校各種学校連合会　事務局　鋤崎麻里
出張先での 具体的取り組み内容	本事業の取り組み事項③－4「台湾人留学生向け短期滞在受け入れモニター実施」において造成したプログラムの情報発信及びモニターの獲得を目的として、台湾の各地域の学校を訪問し、現状のニーズ等も含め意見交換を行った。 ■教育機関訪問 10 月 29 日　永平高級中学 國立中科實驗高級中學 靜宜大學 新民高級中學 10 月 30 日　東禾国際外語学校 10 月 31 日　高雄市立六亀高級中学 左営高級中学 高雄市立林園高級中學 11 月 1 日　日学館　説明会
課題と所感	・台湾については、遊学・短期プログラムを行いたい現地の高校をターゲットとして、フェアへの参加や高校訪問、情報発信をおこなった。 ・遊学・短期プログラムについては、反響も良く、今年度の実施への手ごたえを感じた。 ・台湾では、TSMC の影響で、熊本に対する認知度は格段に上がっていた。旅行者を含めてビジネス・交流機会はますます増えるので、遊学・短期プログラムについても高評価であった。
所要額	（1）＋(2)の合算　823,727 円

○専修学校状況アンケート調査

熊本県内の実態の把握ができていない県内の専修学校 40 校への留学生の最新の実態把握のためのアンケート調査を実施した。また、令和 7 年現在留学生の受入を実施している専修学校 9 校に依頼し、現在在学中の留学生受入れの実態を把握した。

【調査期間】2025 年 7 月 1 日～9 月末日

【調査方法】調査用 Excel ファイルをメールにて各校へ送付

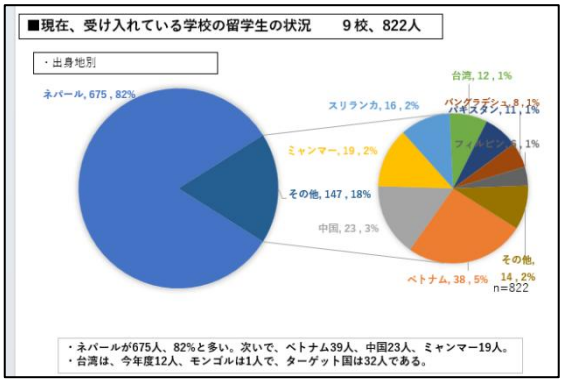
▷アンケート結果一覧

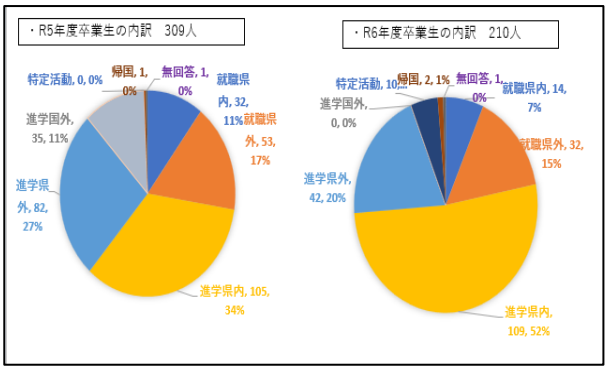
- **アンケート回答　39学校**
- **現在留学生受け入れ中の学校　9校**
- **令和7年度：留学生受け入れ数　822人（R6年度630人）**
- **令和7年度：ターゲット国留学生数　32人（R6年度9人）**
- **現在、受け入れている、今後も受け入れいていく　9校**
- **過去、受け入れていた、今後も受け入れていきたい　4校**
- **今後、新たに受け入れを検討している　6校**
- **関心はあるがよくわからない　9校**
- **今後、受け入れる予定はない　11校**

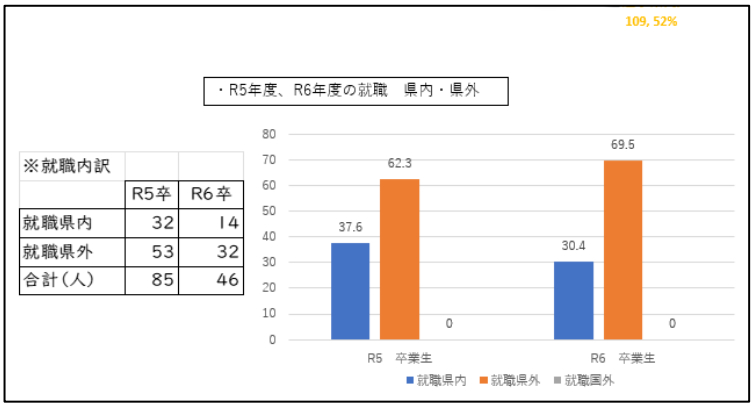
＊留学生数：専修学校在留学生調査から、R6 年度 630 人から R7 年度 822 人と個別の専門学校の留学生数が大幅に上がった。822 人中、ネパールが 675 人（82%）と飛びぬけて多く、次いで、ベトナム 39 人（5%）、中国 23 人（3%）である。

＊ターゲット3か国の留学生は R6 年度 9 人から R7 年度 32 人と確実に増えているが母数は少ないのは課題である。

＊留学生の受入れ学校数は 9 校のままであるが、受入れ学科数は1つ増えて、23 学科となった。なお、新たに受け入れたい意向のある専門学校が 10 校とあるので、県内全体での受入れ学校、学科数の拡大、留学生数の拡大の可能性は十分あるといえる。







○「外国人留学生に選ばれる熊本」プランの進捗確認と更新

本プランは、【外国人留学生に選ばれる熊本】を実現していくために、令和 6 年度から令和 9 年度の 4 か年間で、熊本県専修学校各種学校連合会が本事業の中で主体的に取り組む事業に加えて、熊本県全体で熊本県、各専門学校、業界団体が取り組むもの、また連携しながら推進していく事業を俯瞰的に整理・記載したものである。

基本理念

【外国人留学生に選ばれる熊本】
学んで良し・住んで良し、就職して良しの多文化共生のまち・熊本

基本方針（案） ― **具体的な施策・事業（案）**

熊専各　専門学校　～熊本県専修学校各種学校連合会、専門学校が主体的に行う事業で、R7年度に計画している事業を記載。

熊本県　～熊本県のR7年度事業で、本事業に関係・連携する事業を記載。

K-KURASU　～KUMOMOTO　KURASUのR7年度事業で、本事業に関係・連携する事業を記載。

1．県内に留学したくなる受入れ促進を支援する取組み

- ❶-1. 専修学校向け「新規留学生・受入れ促進の懇談会」 熊専各
- ❶-2. 専修学校状況アンケート調査 熊専各
- ❶-3.「外国人留学生に選ばれる熊本」プランの進捗確認 熊専各
- ❶-4.留学生向け学費・住居費の一時金支援の設置の検討 熊専各
- ❶-5. 多言語パンフレット、動画制作 熊専各
- ❶-6. SNS等による情報発信・広告 熊専各
- ❶-7. ターゲット国での熊本留学フェア・説明会の開催 熊専各
- ❶-8. ターゲット国内でのワンストップ情報センターの設置 熊専各
- ❶-9. ターゲット国の日本語教育機関及び国内日本語学校との提携 熊専各
- ❶-10. 留学生誘致支援「（一社）大学コンソーシアム熊本」支援（企画課） 熊本県

2. 県内で学びたくなる、住みたくなるを支援する取組み

❷-1. 台湾人留学生向け短期滞在受け入れモニター実施 熊専各
❷-2. 留学生向け日本語能力強化策（多言語学習アプリ運用） 熊専各
❷-3.(❶-4.と重複)留学生向け学費・住居費の一時金支援の設置の検討
❷-4. 熊本県外国人サポートセンター運営 熊本県
❷-5. くまもと多文化共創推進事業の実施 熊本県
❷-6. 外国人観光客の受入環境整備 熊本県
❷-7.「熊本県24時間多言語コールセンター」活用の医療機関受診支援 熊本県
❷-8. 多文化交流の場、多文化共生の情報交換の場 K-KURASU

3. 県内で働きたくなる就職促進を支援する取組み

❸-1. 教職員向け「在留管理、就職支援セミナー」 熊専各
❸-2. 企業・団体向け「外国人就職に関する定期的情報提供」 熊専各
❸-3. 企業向け「留学生・外国人受入れ促進セミナー」 熊専各
❸-4.「留学生就職・定着フェア」「外国人材と企業のマッチングイベント」 熊専各
❸-5.「くまもと方言マニュアル」の作成 熊本県
❸-6. 外国人材受入環境向上のための企業内研修教材の作成 熊本県
❸-7. 相談窓口「外国人材受入企業支援センター」設置 熊本県
❸-8. PR動画、パンフレットを用いた熊本で働く魅力の発信 熊本県
❸-9. 外国人材の住宅確保等に関する協定 熊本県
❸-10. 観光産業復興による雇用創出事業 熊本県
❸-11. 外国人材が活躍できる職場環境づくり 熊本県
❸-12. 技能実習生や外国人留学生等の日本語学習、資格取得等への支援
❸-13. 熊本で適切に働き、生活するための仕組み作り K-KURASU

○ターゲット国での熊本留学フェアの開催業務

■ターゲット国での熊本留学フェアの内容と総括

・熊本県の専修学校を広く国外に発信し、より多くの外国人留学生が熊本県を留学先として認知してもらうために、各国の状況に合わせて、熊本留学フェアの開催や、日本留学フェアへ出展、オンラインによる開催を行った。また、合わせて、熊本県の魅力を発信、個別の質疑応答、相談を実施した。

（モンゴル）

・モンゴルでは、1年目で提携を深めた日本語教育機関FUJI EDU MONGOLIA社が主催する

「日本留学フェア」に出展し、学校説明や留学相談対応を行った。

・当日は、熊本県専修学校各種学校連合会の「特設ブース」を設置し、6校の紹介を行った。2日間で1,000人を超える来訪者ががある中で、「特設ブース」には200人を超える着席を促し、熊本県の魅力、各学校の紹介等を行い、熊本県への留学の機運を高めることができた。

・来訪者の中から来８年度、熊本の専門学校に入学予定の学生も実際にでてきている。

【モンゴルから専修学校への入学と就職の流れ】



■ターゲット国での熊本留学フェアの内容と総括

（ミャンマー）

・ミャンマーにおいては、政治情勢が不安定であること、2025年3月のミャンマー中部マンダレーでの地震の被害もあることから、現地で熊本フェアを行うより、オンラインで説明会形式で開催する方が、ミャンマー国内の留学生が参加しやすいという判断から、オンラインの説明会を実施した。

・熊本県専修学校各種学校連合会の紹介、専門学校、日本語学校の紹介と説明会、各学校ごとに分かれての個別質疑応答・相談会を実施した。

・申込者数：34名、当日参加者数：約15名であったが、留学生は熱心に聞き入っていた。出願者意向の学生が数名おり、合格内定を得た学校もあったが、諸事情で入学には至らなかった。ミャンマーにおいては、オンラインで説明会が有効であることがわかった。

【ミャンマーから専修学校への入学と就職の流れ】



（台湾）

・台湾については、遊学・短期プログラムを行いたい現地の高校をターゲットとして、フェアへの参加や高校訪問、情報発信をおこなった。

・独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）は主催する「日本留学フェア」に、熊本県の情報発信を兼ねて、会場内でPR紹介を行った。遊学・短期プログラムについては、反響も良く、今年度の実施への手ごたえを感じた。

・台湾では、TSMCの影響で、熊本に対する認知度は格段に上がっていた。旅行者を含めてビジネス・交流機会はますます増えるので、遊学・短期プログラムについても高評価であった。

〇ターゲット国の日本語教育機関及び国内日本語学校との提携

■国内外の日本語教育機関への訪問・提携の内容と総括

・各ターゲット国でターゲット分野における日本語教育機関及び国内の県外日本語学校との提携を加速するため現地訪問、日本語教育機関との連携、熊本留学フェアでの協議を行った。

・ターゲット国：モンゴル、台湾の3か国への訪問、ミャンマーはオンライン

・ターゲット分野：IT分野、宿泊分野、介護分野に関心が高い日本語教育機関との協議

・ターゲット国：モンゴル、ミャンマーから直接留学生を受け入れて、熊本県内の専門学校　に入学するルートを提携する国内日本語学校との協議

・今年度は、モンゴル、ミャンマーの熊本フェア前に、福岡の日本語学校2校（GAG日本語学院、福岡国際学院）と具体的な提携を行い、留学生の受け入れを促進した。

■本国⇒県外日本語学校⇒県内専修学校への入学⇒県内企業への就職の流れ



・モンゴル　国内日本語教育機関３件、日本国内日本語学校　2件、　5件

・ミャンマー国内日本語教育機関３件、日本国内日本語学校　2件、　5件

、台湾　　日本語教育機関、高校、関係機関　　14件、合計22件

○台湾人留学生向け短期滞在受け入れモニター実施業務

台湾人留学生を対象とした、遊学(短期プログラム)プログラムの実施に向け、モニターとして検証・実施した。

■実施概要・実施期間:2026 年 2 月 4 日(水)～7 日(土)

・参加者:台湾の高校生 14 名

・内容:学校見学、進学説明会、熊本観光&文化&自然体験、専門学校生との交流イベント

2026/2/4(水)

時間	予定	場所
9:35	坪井本校出発	壺溪塾坪井本校
10:35	劉姉＆弟　到着	阿蘇くまもと空港
11:30	新民高校　ホテル迎え→坪井本校へ	ホテルマイステイズ熊本
11:00	盧さん壺溪塾到着	壺溪塾坪井本校
	劉姉＆弟ホテルに荷物置く	ホテルマイステイズ熊本
12:00	坪井本校到着予定	壺溪塾坪井本校
	昼食	
13:00	オリエンテーション、自己紹介	壺溪塾坪井本校
	熊本の専門学校紹介	壺溪塾坪井本校
13:40	日本語講座	壺溪塾坪井本校
15:00	坪井本校出発	壺溪塾坪井本校
15:30	熊本城周遊、加藤神社着参拝	
	城彩苑着	城彩苑
	バス坪井本校戻り	
17:00	ワクワク座　熊本城VR(10分)	城彩苑
18:00	夕食(21名)	ビュッフェレストランぎんなん
	徒歩移動でホテルへ	
20:00	ホテル　宿泊	ホテルマイステイズ熊本

2026/2/5(木)

時間	予定	場所
	朝食	ホテルマイステイズ熊本
9:30	ホテル出発	ホテルマイステイズ熊本
10:00	大学見学	崇城大学
11:30	昼食(26名)	崇城大学
13:00	大学出発	崇城大学
13:30	大学見学	熊本大学
15:00	大学出発	熊本大学
15:30	熊本県庁着・ルフィ像見学・写真撮影	熊本県庁
16:00	県庁職員による説明	熊本県庁
16:30	県庁出発	熊本県庁
17:00	ホテルへ	
	バス坪井本校戻り	壺溪塾坪井本校
17:00	自由行動	街中周辺
19:00	夕食(21名)	牛しゃぶ牛すき　担馬屋
	ホテル　徒歩移動	
	ホテル　宿泊	

2026/2/6(金)

時間	予定	場所
	朝食	ホテルマイステイズ熊本
9:30	ホテル出発	
10:00 10:30	工場周辺見学	TSMC周辺
	トイレ休憩	道の駅大津
12:00	昼食(21名)	ASO MILK FACTORY
13:30	ASO MILK FACTORY出発	
14:00	阿蘇青少年交流の家到着	阿蘇青少年交流の家
	オリエンテーション	阿蘇青少年交流の家
15:10	阿蘇神社へ出発	阿蘇神社
	バス坪井本校戻り	阿蘇青少年交流の家
	アクティビティなど	阿蘇青少年交流の家
18:00	夕食、アンケート記入	阿蘇青少年交流の家

2026/2/7(土)

時間	予定	場所
7:30	朝食	阿蘇青少年自然の家
8:10	盧さん空港へ出発	阿蘇くまもと空港
9:00	ホテルへ出発	ホテルマイステイズ熊本
10:30	ホテル→熊本駅	

・.本プログラムは、全体として「満足」「とても満足」が多数を占め、高い満足度を得ている。特に観光、熊本城・加藤神社、熊本大学、食事、日本人・大学生との交流が高く評価されている。

＊アンケート結果から次年度以降のプログラム本格始動に向けて検証。満足度は大変高く、台湾の高校での評判もよく、R8 年度の夏に第 2 弾を要望されるほど、反響であった。アンケート結果から、「授業・講義体験」を求める意見が多く上がったことを参考に、次回実施に向けプログラムのブラッシュアップをおこなっていく。また、専修学校への入学につながるプログラムの構成、参加者募集が今後の課題である。

○教育指導サポート業務（多言語学習アプリ運用）

・留学生の在学中の教育指導のサポートを目的に、留学生向け日本語能力強化策（多言語学習アプリ運用）を行った。

・利用期間:令和 7 年 7 月～令和 8 年 1 月

・提供アカウント数:　県内専門学校留学生向け　7専門学校、 200 アカウント

・スマートフォン版ダウンロード URL

Web 版（PC ブラウザ）URL：https://web.learntowork.app/

学習管理者向けアプリ

Web 版（PC ブラウザ）URL: https://admin.learntowork.app/

・対応言語:日本語、ミャンマー語、モンゴル語、中国語（繁体字）、英語、中国語（中文）、
ベトナム語、インドネシア語、ネパール語

利用状況報告

本年度のアプリ利用状況は以下のとおりです。

アプリ全体

学習回数（累計）	学習時間（累計）
874	29:08:28

※補足説明

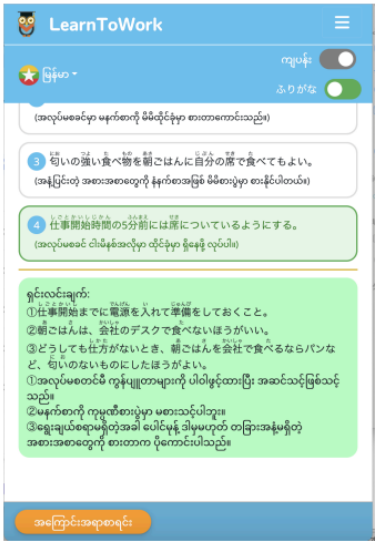
本年度は200アカウントを発行し、各校へ提供しました。うち、実際に利用登録が行われたアカウントは102件でした。登録数については、各校における導入時期や活用方針、利用対象者の選定状況等により差が生じています。また、本アプリはアカウントの付け替えが可能な運用形態であるため、発行数と登録数が一致しない状況となっています。

学習カテゴリー別

カテゴリー	学習回数（累計）	学習時間（累計）
日本語　N5	138	03:28:09
日本語　N4	278	10:22:05
日本語　N3	116	03:28:25
日本語　N2	318	11:15:21
日本語　N1	16	00:27:07
生活マナー	6	00:06:14
ビジネスマナー	2	00:01:07

日本の生活・マナー学習コンテンツ





〇教職員向け「在留管理、就職支援セミナー

・留学生が国内就労する際に必要な在留資格変更に関する基礎的な知識や企業ニーズの現状、学生指導に関する最新情報を教育関係者に提供するために、セミナーを実施した。

・実施日　令和 7 年 12 月 12 日（金）14:00～15:30

・形式　　対面形式／オンライン形式
　　オンライン会議システム Zoom ウェビナーを利用

・会場　　KKR ホテル熊本 2 階　ニコル

・講師　　キャリアコンサルタント／外国人雇用労務士
　　家守　里佳氏

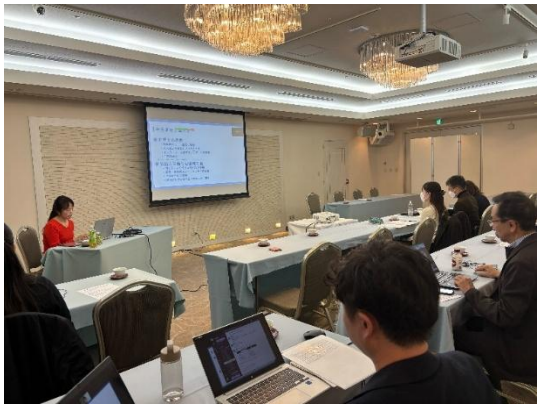
・内容　　熊本県の留学生を取り巻く環境
　　留学生像の変化と専門学校に求められることとは
　　質の良い留学生を集めるには　等

・申込　　6 校 13 名

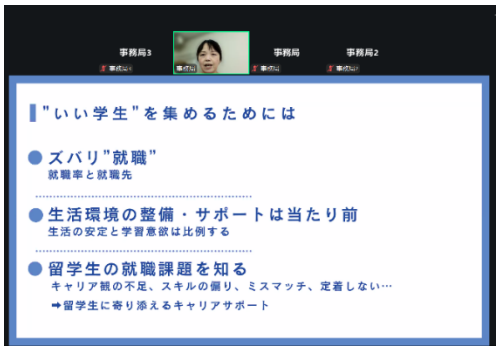
▼案内チラシ



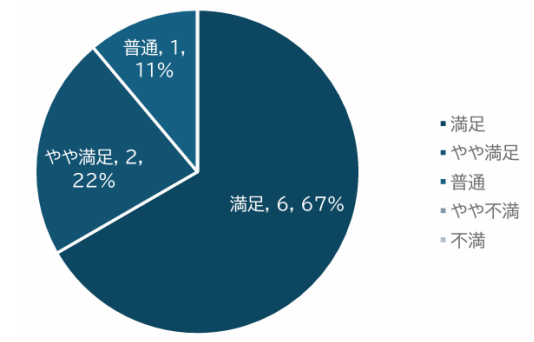
▼当日の様子　　対面開催の様子



オンラインの様子



■本日のセミナーの満足度



〇留学生用 web ページ、多言語パンフレット、動画制作

・熊本県内の専修学校を広く国内外に発信し、より多くの外国人留学生が熊本県を留学先として認知し、各専修学校の外国人留学生誘致をサポートするものとして、また県内で学ぶ留学生が様々な支援サービス情報を容易に入手できる多言語パンフレット及び、動画を制作する。

・留学生用 web ページ：TOP・下層 3 頁、動画やパンフレット掲載ページ

・多言語パンフレット①：A4 サイズ、カラー、12 ページ、2 言語

・多言語パンフレット②：A4 サイズ、カラー、4 ページ、5 言語

・長編　4言語×各1本　、超短編　4言語×各 6 本　計 28 本

・ポスター作成　A1　1 種類

〇web ページ URL：https://kumasenkaku-pr.com/

▼TOPページ（日本語）



▼TOPページ（繁体字）



〇多言語パンフレット①：A4 サイズ、カラー、12 ページ、2 言語



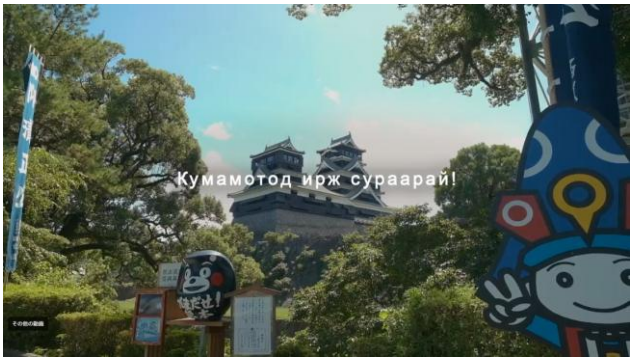
○長編 4言語×各1本 、超短編 4言語×各 6 本 計 28 本

▼英語



https://youtu.be/XP1f_pL43zU?si=rFj1KmtUO0fJEFVs

▼モンゴル語



https://youtu.be/ZjKJa0GUqQw?si=JSNTmvrjUURX_7Xn

▼繁体字



https://youtu.be/2uTMinKUufM?si=mGvVFBYKj4cc3TKn

▼ミャンマー語



https://youtu.be/7cat0sMcqX0?si=bF7ZdZaeP3OdjfFY

○台湾：パンフレット制作　１件

台湾人留学生向け短期滞在受け入れモニターの参加者募集の際に、熊本への関心を高めるパンフレットを作成。

▼表面



▼裏面

